



山形市立第八小学校 学校だより

令和8年 9月 8日 発行

うめばち

<http://www.dai8-e.ymgt.ne.jp>

school@dai8-e.ymgt.ed.jp

2学期始業式 「時間の使い方を考える」

8月28日、2学期の始業式を行いました。始業式では、「時間」について話をしました。

時間は、お金や物とは違い、一度使うと取り戻すことができません。流れる川のように、今この瞬間の時間は二度と戻ってこない貴重なものです。

その時間の使い方には、大きく二つあります。一つは、「未来のために時間を使うこと」、もう一つは、「今を味わうために時間を使うこと」です。

例えば、「漢字を覚える」「マラソンの記録を伸ばす」「友達に自分から声をかける」といった目標を立てて努力することは、未来の自分のために時間を使うことです。一方で、友達と笑い合ったり、給食をおいしいと感じたり、本に夢中になったりすることは、今を味わう大切な時間です。

子どもたちは、今を楽しむ力を十分に持っています。だからこそ2学期は、「未来の自分のために今の時間を使う力」も育ててほしいと思います。



また、目標を立てる際のポイントとして、「納得」と「努力」の二つを紹介しました。「先生や家の人に言われたから」ではなく、自分自身が納得して決めた目標であること。そして、少し努力しなければ達成できない、挑戦する価値のある目標にすることが大切です。

さらに、1学期終業式で話した「安心できる学校を創る」ことにもつながりながら、自分のためだけではなく、みんなが気持ちよく過ごせる学校づくりを意識してほしいと伝えました。

今しかできないことを大切にしながら、未来のためにも時間を使う。それは未来の自分へのプレゼントです。一人一人が自分で目標を定め、時間を大切に使いながら、「自ら楽しい暮らしを創る」2学期にすることを期待しています。

【児童代表発表 「2学期にがんばりたいこと」】

児童代表の二人は、それぞれ学習や学校生活での目標について発表しました。2年生は、漢字や算数の学習に進んで取り組むことや、あいさつや身の回りのことをしっかり行うことを目標に掲げました。4年生は、自分で考えて行動することを大切にしながら、委員会活動で積極的に意見を発表したり、あいさつや友達との学び合いを通してよりよい学校づくりに貢献したりしたいと話しました。

二人の発表からは、自分の成長だけでなく、周りの人との関わりや学校全体をよりよくしていこうとする思いが伝わってきました。全校児童にとっても、2学期の目標を見つめ直し、新たな気持ちでスタートするよい機会となりました。



学びは、安心できる環境から始まる

本校では、「安心できる学校を創る」ことを大切にしています。これは、子どもたちが気持ちよく生活するためだけではなく、学びを深めるためにも欠かせない土台だからです。

近年注目されているポリヴェーガル理論では、人は周囲を安全だと感じているときに、他者とつながり、好奇心をもち、新しいことに挑戦しやすくなると考えられています。反対に、不安や緊張が強い状態では、学ぶことよりも自分を守ることが優先されます。

学校でも家庭でも、「失敗しても大丈夫」「困ったら助けを求めている」「あなたの話を聞くよ」という安心感があるからこそ、子どもたちは挑戦することができます。そして、その挑戦の積み重ねが学びや成長につながっていきます。

本校で大切にしている「環境化無為」の考え方も、こうした安心につながっています。環境化無為とは、大人が細かく指示や管理をするのではなく、子どもが自然に学びたくなったり、挑戦したくなったりする環境を整えることです。子どもが自分で選び、自分で考え、自分らしく学ぶことができる環境には安心感があります。そして、その安心感が主体的な学びを支えているのです。

最近も、子どもたちが安心して学ぶ姿をたくさん見ることができました。

1年生は、友達と一緒に音楽に合わせて体を動かしていました。信頼できる友達と一緒にだからこそ、安心して思い切り表現することができます。



2年生は算数で「工夫して計算する」学習に取り組んでいました。先生の話真剣に聞く表情には笑みも見られ、学ぶことそのものを楽しんでいる様子が伝わってきました。



3年生は社会科「買い物調べ」で、家庭で集めた情報をグループごとに整理していました。「質問する・話す・聴く」が相互に行われ、自分の考えを受け止めてもらえる安心感の中で、生き生きと学んでいました。

4年生は国語で文章の要約に挑戦していました。条件を踏まえて分かりやすくまとめるのは大人でも難しい課題ですが、子どもたちは互いの意見に耳を傾け、柔らかな表情で意欲的に取り組んでいました。



5年生の算数では、図形の角について学習していました。「わからない」「どうするの?」というSOSが自然に出され、それを友達が受け止めながら学びを進めていました。問題が解けた瞬間の「気持ちいい!」という声が印象的でした。

6年生は図工「くるくるクランク」の制作に取り組んでいました。友達と話しながら進める児童、一人でじっくり考える児童など学び方は様々でしたが、自分に合った方法を選びながら、主体的に活動していました。



これらの姿から、子どもたちは安心できる環境の中でこそ、自ら考え、友達とつながり、難しいことにも挑戦できることを改めて感じます。

これからも子どもたち一人一人が安心して過ごし、自ら愉しいくらしと学びを創ることができるよう、「環境化無為」の視点を大切にしながら、安心して学べる学校づくりを進めてまいります。

